

山川偉也先生との思い出の記

69 s 279 戸 江 雅 一

山川先生との出会いは、1970年の外書ゼミで指導していただいたことに始まります。当時の大学は1年生で基礎ゼミを2年生では外書ゼミを履修するシステムでしたが、1年の頃は大学紛争でじっくり学問をする状態ではなく、2年になって本腰を入れて学び始めた時期でした。

外書講読はベルタランフィーの『一般システム理論』で、市販されていなかったためか青い熱転写の感熱紙を束ねた分厚いテキストで学びました。

私は20歳、先生も30歳代前半の若い大学教員で熱心に語りかけられ、積極的にゼミ生の私たちに発言を求められました。私は先生の学問に対する厳しい姿勢を感じとても緊張して授業に臨んでいたことを記憶しています。でも私は先生に親しく応えていただけることが嬉しくて、大学構内で先生のお姿を見かけた時は、哲学・思想で疑問に感じたことを質問しました。今となってはどんな質問をしたのかさっぱり思い出せませんが、先生から『原書から学びなさい』というアドバイスは今でもはっきり覚えています。ただ私には、原書から学ぶほどの力量もなく、一般書から聞きかじったことの疑問を先生にぶつけていました。

しかし理解の浅い私の知的好奇心に先生は、快くつきあっていただき応えていただけたことを大変感謝しております。

その点において先生は、専門分野で高い評価を受けておられる優れた研究者であると共に、知的好奇心を持つ未熟な学生に対しても愛情を持って接して下さる優れた教育者であることを教え子である私が実感しています。

毎週外書ゼミが終了すると北野田駅までの長い道のりを数名のゼミ仲間と先生を取り囲むようにして話ながら歩きました。その時は、学問の話だけでなく、様々な趣味の話にまで及び楽しくお話をお聞きしました。

先生は、刀鍛冶になる修行をされかかったとお聞きしてびっくりしたことを覚えています。私は、父が美術道具商をしていることもあり、刀剣だけでなく古美術品に興味があってよくデパートの古美術売り場などを見て回ることを趣味にしていたのですが、先生も時間があればデパートをぶらっと回ることが楽しみだとお話されました。

3年の時に、本学で募集していた学生論集に応募して掲載されることになったのも、先生から物事を緻密に論理的に組み立てて学ぶ手法を教えていただいたことも大きかったと思います。

4年の時、先生と北野田に向かう道すがら私の卒業後のことを聞かれ、教員採用試験に不合格となったことなどを話しますと、先生は高校の講師の仕事を紹介しようといってくださり私のことを評価してくださっていることを大変嬉しく思いました。

幸いにも中学校で社会科講師の職を得て、翌年には大阪府公立中学校の採用試験にも合格して今日に至っています。

その後大学が登美丘キャンパスから、私の住む自宅近くの和泉中央キャンパスに全面移転したこともあり、いずれ山川先生にもお会いする機会があるだろうと思いつつも反面、30年以上も前の多くの卒業生の一人にすぎないので、忘れられているだろうと思っていました。

私自身は、仕事のない毎土曜日は、大学の図書館を利用させてもらい山川先生の著作物の多くも読ませていただき身近に感じていましたが、たまたま大学構内で寺木先生からお声をかけていただいたことを契機に、ここ何年か前から教職課程履修の学生に向けて教育実習に臨む心構えなどを本学卒業の公立中学校校長としてお話すの機会を得た関係で山川先生が私の

山川偉也先生との思い出の記

ことを覚えてくださっていることを竹中先生からお聞きして先生の研究室を訪ね、三十年かぶりに先生の講義も聞かせていただきました。

講義は若き日の先生と同じく情熱的で学生たちに発言を求められながら授業を進められていました。私は講義をお聞きしながら、秋の日差しが差し込む教室の中で先生のお話を聞いていると若き日の自分に戻ったような錯覚を感じました。

現在、私は岸和田市の中学校校長会と大阪府公立中学校教育研究会の代表をさせていただいていますが、その基礎と教師としての姿勢を恩師山川先生から教えていただいたと思います。

山川先生の教え子の一人として、このことを私の知的財産として今後も大切にしていきたいと思います。ありがとうございました。先生のさらなるご活躍をお祈りいたします。